

令和5年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

2年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字の字数が増え、習得状況に開きが見られる。約80%の児童が既習漢字のほとんどを正しく書くことができている。 ○話す、聞く活動については、クラス間で実態の違いがあるものの、自分の考えを発表することに課題が見られる児童は各クラス50%程いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字の学習の際に、児童が知っている熟語を出させることで漢字への興味をもたせ、理解の定着を図る。 ○学習した漢字は宿題に出し、繰り返し練習に取り組みせるようにする。その上で、漢字小テスト等でこまめに定着具合を確認する。 ○自分の経験などを友達にしっかり伝えるために、身近で興味をもてそうな題材をテーマにしたスピーチの交流等の時間を設定し、自分の考えを伝えることへの抵抗感を減らしていけるようにする。また、グループ・ペアなど、話し合いの形態を工夫して活動させる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「たし算の筆算」や「ひき算の筆算」の到達度の平均が87%程度と、他の単元の平均(92%程度)よりも低くなっている。 ○「長さのたんい」では、手指の巧緻性の個人差が大きく、正確に測定することに苦慮している児童が30%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習で東京ベーシック・ドリルや宿題プリント、ミライシードを活用して、くり返し指導を行うことで基礎・基本の定着を図る。 ○いろいろな教科でものさしを使う活動を積極的に取り入れ、測り方や直線の引き方を習熟させる。 	
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や見学など実践的な活動を通しての記録や振り返りは、ほぼ全児童が書けている。一方で、自分の考えや感想を他の児童に共有することに抵抗を覚える児童が30%ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動を振り返る時間を確保し、授業内容について理解を深めるとともに、次回以降の活動に見通しがもてるようにする。 ○具体的な定型文や代表児童の感想などの参考例を提示することにより、書く活動に対しての心理的なハードルを下げ、少しずつ自分の言葉で書けるようにする。 	

<p>図工</p>	<p>○自分の描きたい、作りたいものを楽しんで作ることができる。一方何かに見立てるような想像力を働かせたり、ねらいとなる技法を活かしたりすることが難しい児童もいる。</p>	<p>○日常的に形や色などの抽象的なものからイメージを膨らませる活動を取り入れるようにする。</p> <p>○技法の習得については、題材によって一度練習をしてから製作に取り組ませるようにする。</p> <p>○自分の好きなものを明確にすることや、自分のやりたいことを言葉にするようにしてから作品作りに取り組めるようにする。</p> <p>○活動の際にねらいとなる技法を言葉だけでなく具体的に映像等で確認し、作品に活かせるようにする。</p>	
<p>体育</p>	<p>○体を動かすことが好きで、意欲的に活動へ取り組める児童が多い。一方、友達のよかったところや自分が上手くできたときの体の動かし方などを言葉にして相手に伝えることが難しい様子がある。また、ゲームのルールを工夫したり、攻め方を選んだりすることにも個人差がある。</p>	<p>○良かったポイントを共有したり、友達と攻め方を選びながら協力してゲームに取り組んだりする活動を設定し、良かった点や改善点などを伝え合い、次もやってみようと思えるような環境づくりをする。</p>	